

滋賀県道路整備アクションプログラム
地域別アクションプログラム（大津地域）第3回地域ワーキング

議 事 概 要

日 時：令和4年11月18日（金） 14時00分～16時00分

場 所：滋賀県危機管理センター1階大会議室

出席者：青山 知子 委員（大津交通安全協会 女性部長）

大森 睦浩 委員（大津北警察署 交通課長）

（代理出席 國分 章委員（大津北警察署警部補））

小川 圭一 委員（立命館大学理工学部環境都市工学科 教授）

鬼塚 泰二 委員（大津市建設部 道路建設課長）

後藤 佳子 委員（大津市地域女性団体連合会 副会長）

須山 進 委員（大津商工会議所 観光運輸部会）

高岡 裕子 委員（大津警察署 交通第一課長）

西 耕一郎 委員（公募委員）

野村 義明 委員（社団法人滋賀県バス協会 専務理事）

横田 久美子 委員（大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹）

欠席者：佐藤 祐子 委員（公益財団法人びわこビズターズビューロー副会長）

竹平 陽 委員（公募委員）

丸山 忠司 委員（社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事務局次長）

（五十音順）

1. 開会

2. 地域ワーキング

（1）「地域の声」のとりまとめ

- ・事務局より地域の声のとりまとめについて説明を行った。

（2）「地域の重点項目」のとりまとめ

- ・事務局より地域の重点項目のとりまとめについて説明を行った。

（3）地域の課題を解決する事業中箇所

- ・事務局より地域の課題を解決する事業中箇所について説明を行った。

（4）ソフト対策の取り組み例

- ・事務局よりソフト対策の取り組み例について説明を行った。

○各委員からの主な意見等については以下のとおりである。

【地域の声（案）について】

① 幹線道路と生活道路の機能分化

- ・バスは地域の方の足として、生活道路やそれに近い道路を走っている。幹線道路が混むと自家用車が他の路線を走るので渋滞する。生活道路はなかなか歩道と車道を区別した道路が少ないので、そういう意味ではきちんと機能を分けて道路整備を進めるのは重要である。
- ・古い団地などでは、バス停まで行くのに歩いて20分かかる地域がある。地域として、どのように歩けない人や車いすの方の安全を守るかという課題がある。ゾーン30という形で整備して車の事故が減れば良いと思う。
- ・自転車のマナーが非常に悪いという声をドライバーから聞く。横断歩道の信号無視、横断歩道以外での横断など、マナーが悪い中で、幹線道路と生活道路の機能分化として、ハンプの設置は非常に良いと思う。
- ・すれ違いができないほど狭い道は、短い区間でも一方通行にしてもらえたらスムーズに走れると思う。
- ・ライジングボラードの設置はすごく良いと思う。生活道路で、走行可能時間などを標識に書いていてもなかなか目に入らない。見にくいところに設置していて分からないことも多いので、ボラードがあれば良いと思う。

② 歩行者や自転車の安全・安心につながる道路整備

- ・前半部分は文章としてうまくまとまっているが、「ビワイチルートにおいては～」には何か言葉を付け加えることはないか。文章に突然感がある。
- ・ビワイチルートの部分で「自動車・自転車の双方が～」とあるが、歩行者は入れなくても良いのか。上級コースは車道だが、低速コースでは歩道の箇所もある。

③ 災害や緊急時に強い道路整備

- ・「幹線道路の機能向上と併せ～」とあるが、幹線道路の機能向上とは何か。一般の人は分からないと思う。
- ・文章の主語が不明確。主語・述語を明確にしてはどうか。
- ・事故をどこまで含めるか。大きな火災でも通行止めになる場合もある。「等」を入れておいた方が良いと思う。
- ・(救助活動と救命活動が混在しているという事務局の話を受けて) 救助には救命も含まれるので、「救助活動」の方が範囲は広いのではないか。

④ 今後の道路の使い方を考える新たなチャレンジ

- ・「既存の道路空間の使い方を～」とあるが、“の”が続くのが気になる。「既存道路空間の使い方」にしてはどうか。同じく2段落目も「ICT等の新技術の活用」と“の”が続いている。

【地域の重点項目（案）について】

① 主要幹線道路の著しい渋滞を緩和する道路整備

- ・山手幹線が整備されることで瀬田地域の渋滞が懸念される。渋滞対策が重要だと思う。
- ・渋滞の緩和については、警察では信号周期を変えて渋滞緩和を少しずつ、地域を選定しながら進めている。

② 災害や緊急時に強い道路ネットワークの整備

（意見なし）

③ 居住誘導区域内における歩道整備

- ・ハード対策を求める声もあるが、PTAと連携して保護者が通学路で車をゆっくり走らせる対策などがあることなど、良い方法を知る機会があれば、すぐに実行できる。皆で検討できるような機会が持てると良いと思う。
- ・ソフト対策でハンプや狭窄等の事例があったが、設置する場所が限られる。住宅があるところだとハンプは振動があると言われたり、狭窄は家の出入り口付近で嫌がられることも。設置個所で悩ましい問題がある。
- ・歩道整備を進めての賑わいづくりができればと思う。
- ・ハンプ、ボラードで効果はあると思うが、効果がある反面、事故が起りやすくなったり、転倒による怪我、電動車いすが通れなくなったりの負の面もある。
- ・「居住誘導区域内」と書いてしまうとそれ以外のところは整備してもらえないのかという心配がある。文言を少し考えてもらいたい。